京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年　紀元二千五百六十九年
本紙定價　一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
大祭日及び日曜日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金　五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所　京城新報社

俯仰無天地

「自今歎々林泉下、出門世路甚艱難」是れ一誠が冠を挂けて賦せしもの人生れて世に處するの太だ易からざるを言ふ然り人世行路蹉跎たり易く幾たびか行人をして長嘆を發せしむる多し、然れども其の處世の難きは實に夫れ處世の難きにあらずして寧ろ道を行ふの難きにあり、道を行ふの難き、實に夫れ道を行ふの難きにあらずして世の褒貶に風馬耳たるの難きにあり毅然として毀貶に恥ぢず悟然として褒譽を顧みざるものは往々にして之れありと雖ども、是れ所謂我慢せるもののみ、位冠の身の加はるを誇らず、譏罵の身に集まるを知らず、蹇々匪躬、君に仕へて忠ならざるかを虞れ、國の爲めに謀て又た餘念なく其の爲さんと欲する所をなし、其の行かんと欲する處に行き胸宇淨々又た一物を加へず、大悟徹底、俯仰無天地もの、予我藤公に於て之を見たり、功勲赫々服魄と光を爭ふも亦た宜ならずや、處世の難、誠意君國の爲めに瘁す藤公の如きに至つては終に知るに由なかりしけらし病たり耽たり、慕ふべく敬すべし、時に或は淫恣痴の露出するこそあれ、若しも解脱の其れと知らば誰か又た之を咎むるものあらんや。

亡國の韻

韓人清人、捕へ來つて試みに一面の觀察を下さんも亦た面白し、髪を理するに周圍を剃て中部を存し、組で順に垂れて辮するものは清の男子なり、頂髪を去て邊髪を剩し、束ねて逆に梳つて髻するものは韓の男子なり、韓の婦女は後ろに低く束ね、清の婦女は頂に高く髷す、韓男は恒に冠し、清男は否らず、將は後者の尊ぶ所、老者にあらずんば著へず、前者は無暗に鬚と共に之を蓄ふ、一は豚肉と蒜とを貪り、一は牛肉と唐辛子とを食ふ、彼は火酒を酌み此は濁醪を飲む、彼は阿片を嗜み此は烟草を好む、若し夫れ其の似たる所を覓むれば、性惰にして心怠なるは其の一なるべく、狡性にして盜心あるも亦た其の一ならん、而して其の稍々上流者の、尚ほ世界の大勢に適せず自國の狀態を知らず、一吁一擾は却て已れを蠶食する所以なるを解せず、暹羅の如き匈牙利の如き殷鑑近きにあるも其の轍を同じうすべきを悟らず、六國を亡ぼすものは矢張り秦なりしとするの亞流、徒らに社稷の安からざるを叫び、藻掻き足掻いて覇て之を危うし利權の回收に腐心して寧て之を失ふの一事に至つては、酷だ相似たるものゝ一なり、此の寒空に西風に嘶く驛馬の聲の哀れげに、死に瀕するが如く悲しみ痛むが如く、怨むが如く、訴ふるが如く、溺々響て雲に入るを聽ては、予は轉々其の聲の亡國の韻を帶び、不吉の將に近づかんとするを告ぐるものゝ如きに悵然たらざるを得ざるなり、而して之に亦た其の酷だ相似たるものゝ一なるべき歟と疑ふ(一者記)

天氣豫報に就て

京城測候所　日詰忠完

早朝人毎に天候の良否寒暖に就き話頭に上るを例とす之れ慣習とは云へ人生と多大なる關係を有するを以てなり然るに其大部は過去又は現在の模樣にして未來は唯希望を述ぶるに止まるされば未來の豫測なりとも知るを得ば吾人の快樂を增し更に進で殖産興業の道に資すること尠とせず扨天候の正確を知るは頗る難中の難容易の業にあらざれども近世氣象學は他科に撰て長足の進歩をなし昔日天變と稱し不可解に終りしものもフェルル、ホルムホッツ、ハーン等の大儒により開拓せられ尚敷衍して將に來らんとする天候變化の豫察を下し理論時代より應用時代に移らん」然れども往々豫報に就き稽言を發するものを聞く豫報は爾後來るべき多望なる天氣の變化を示すものにして確報にあらず試みに銃を把り計量したる彈藥を裝塡し豫め距離を知れる金的に向ひ發砲せんに百發百中は保すべからず又入射反射の角を豫知して玉を突かんに暫時にして勝敗を決す況んや天候の關する所距離面積に於て前者の幾萬倍なるを知らず其の要素のみにても氣壓、氣温、風向、風力、雲量、雲形、海陸の配布、山谷の起伏、天體の運動一つさして因ならざるはなく多枝多葉なる實に名狀すべからず或は云はん漁農の夫はよく風雨を知ると之れ多年の經驗に基き歸納法に依り短時の豫想にして演繹法を加味するに若かず倫日く大旱は草木枯死し大雨は稲田流失し大風は高樓崩壞す宜しく東風を西風に變せしめ雨を晴に替へしめよと之亦妄も甚しく人爲を以て自然を左右するは魔神と雖なすべき所に非らざるがかゝる災害をして輕減せしむるの策を講じ雨降らんとすれば收藏し風吹かんとすれば乘船を延べ纜結ばんとすれば煙烟を施し蛟龍をして暴威を逞するの餘地を與へざるは法の得たる所ならん假りに一船警報を疎し出港せんに途中劇浪の爲め生命財產を失ふたりとせん金以て贖ふべきや悲以て償ふべきや

されば觀測者は晝夜寒暑の別なく風雨と戰ひ不斷の觀測より得たる結果を一日三回電報により數十個所と要素の交換をなしルウエレー氏創意に成れる天氣圖上に等壓等溫線を描き彼の有名なるフラクリン、バイスハロント、ルーミース、ヒルデブランド、アバクロン等の大家により發見せられたる諸法則を適用し理論的觀察に加ふるに統計により得られたる日差時差と比較し既往の經驗に徵し尚局地の性癖を參酌し漸く天氣豫報を發す殊に氣壓の差僅少にして不闘なる場合又は所々に數個の副低氣壓發生せしときの如きは判斷に苦しむことなきにあらず其有効期間は二十四時間なれども天氣固定すれば數日前に察知する難きにあらず今其適否を數表せんに中央氣象臺の調査によれば正中平均百分の八十五歐米にては八十一乃至八十九なりと而して當京城に於ては去る八月以來諸方の請求により正午前後豫報を誠發したるに十月に於ては百分の九十一を示せり則ち約九割は正鵠なる天氣たるを信ず之れ全く統計的材料の稍整理したると僥倖の加擔したるに因るならんも二ケ年の星霜は地球の年齡に比ずれば長しと云ふを得ず益々共に斯道を研鑽し有効の道に應用せられんことを望む聊か創立二週年に際し愚見を羅致したるを悅つ

雜報

天長節夜會の始

天長節の當日、外國公使に宴を賜ひしは、明治四年にして時の外務大臣夫婦が主人となり、皇族の方々、内外の官吏及び、民間有志の紳士等を招待して夜會を催す例は、明治十二年、延遼館に於てせしものを始とす、爾後今に至るまで、年々其催しのなきはなく、會場は、十六年までは、同省又は外務省官舎を充用し、同年鹿鳴館の建築成るに及び會場を此處に定め、引續き十年以上同館にて開會したりしかば、天長節の夜會と鹿鳴館とは、殆ど離るべからざる因縁の如く見なしに、去る二十七年十二月、同館は華族會館の手に歸したるを以て、爾來更に帝國ホテルに於て開かるゝこととなれり

明治十五年十一月六日の時事新報に、左の記事あり

去る三日天長節を祝し例年の通り霞關外務卿官舎にて、午後七時より、大臣參議各國公使へ晩餐の饗應あり、畢て九時より夜會を催され、來會の内外貴紳貴女、無慮七百名、奏樂舞踏等の催あり、全く散會したるは午前二時過なりし、當夜外務省の表門へは、菊花の瓦斯燈を點じ、官舎の廻り樹木の枝等に、無數の紅提燈を下げ、庭前には絶えず大小の花火を擧げ、頗る鄭重なる饗應なりしが、外には小商人が屋臺店を並べ居り見物人が右往左往する様は、丸で金比羅水天宮の縁日といふ景氣也し



第二十一席

伯山改　神田松鯉口演

嬉て麗夫人は涙を拭ひ　麗「然るに往古太平山の前の海に一つの虹あつて常に風雨を起し海嘯をなし五穀を損ひ萬民を苦しむること多く、先王之れを憂ひ給ひて天地に祈禱し給ひ、自ら潮に浸つて彼の虹を殺し、それを瓶架山の東の谷に埋められたので是れより其山を蒼虹山と稱し、先王虹を殺し給ふ時、顋を裂いて二顆の珠を得給ひしが其一顆を琉と名付け又一顆を球と云ふ、此珠代々の王に傳へて今日に至り申候、所が此琉球國は王女に位を傳へ給ふ例なれば此少女こそ寧王女とて先頃世子に立ち給ひしが、其時二つの珠をも渡し給ひしに、如何なる事にや其一顆の珠、何れへか紛失して見へませぬ、斯かる神寶の故なくして失ふ道理なく、大方は中婦君の計らひにて朦朧國師に盜ませ給ひしにはあらざるかと思ひながらも、證據と云ふもの更らになければ如何とも詮方なく國王も之れを曉り給はずして忽ち我等兩人珠を失ひし罪に依つて此山へ棄てられ哀れや昨日までは宮殿奥深く多くの宮女に侍かれ荒き風にも當らぬ身が今は猛獸毒蛇の住居なる此の山中に起臥して、朝夕白雲の往來するを見ては都を想起し空蝉の我が身の秋を喞ちつゝ茲にある事三歳に及び、言問ふものは松風の外はあらしや木枯の果は磯打つ浪の音に寢覺わびしい吾が宿の欄もはらはぬ庭面へ物の落る響きせしに驚き走り出で見侍れば此國の人とも覺へぬが昏絶てありつれば、コハ交易の爲に渡海せし日本人よと思ふものから、貯へもてる藥なんどのありもやすると立寄りて御身が懐をかい探るに、思ひも掛ぬ此珠あり今熟視侍るに先きに王女の失ひ給へる一顆の珠に露違はず、よし其珠に非ずとも斯まで似つれば是をもて都に上り王女を宮中へ還へし入れまゐらせ、妾も亦年來の冤屈を脱るべし、御身にありては一顆の珠なり、我に於ては千乘の位に換る寶ぞや、斯様に聞へ侍れば枉て妾に得させ給へよ御願ひなり」と掻き口說きて更に返すべき氣色だにありません、爲朝は暫時嘿思し、先づ此二人の女子の風体を見るに形容こそ窶れて居りまするが何處となく品格あり殊に又寧王女と云へるはまだ幼なき童ではありますが品格高くして一人とは思はれず、爲朝は心中に暫く考へて居つたが　爲「イヤ御身等の話は能く解り申した、實は御察しの如く我等は日本の商人にて少しく此國に求むるものあつて夥しき貨物を船に積みて渡海せしところ、前夜朦雲と云ふ惡道士に奪ひ去られ、ソヲ却して貨はん爲めに蒼虹山へ登つて霧のため誤つて此所へ轉墮して斯くは介抱を得しものなれば其珠とても散て惜むに足らねど我が貨は皆失ひて只其珠一つのみ存せり、然るに我には他に此國にて求むるものあり、其時是れと換ゆべきものなくては困入る次第なれば、是非〳〵珠は返し給へ」と云へば麗夫人之れを聞いて　麗「御身の求め給ふものは如何なる品かは存せねど寧王女若し都にだに歸りなば御身の求むるものを必ず進じまゐらすべし、今此山中に居つては一塊の土なりとも心の儘には爲し難く、一椀の飯ありとも私には施し難し、左れど幸に珠だに得候はゞ國王に奏聞して御身の望みの稱ふるやうに致しまゐらせん一体御身は如何なるものを求め給ふにや、試に申されよ」とイトも優しく問はれまして　爲「オヽ能くぞ問ひ給ひし、我の求むる所のものは此國の產物にて之れなく我日本にありける日一隻の鶴を放せしが足には黃金の牌を付たり、之を放て後我が天皇彼の鶴を召遊ばすべしと勅ありそは先づ頃放遣て候と隙せども、コハ僞ならんとて許給はず是を陰陽師に問へば鶴は今琉球國にありと云ふ、依て數百里の波濤を凌ぎ漸く渡り來つれども未だに鶴を尋ね得ず却て貨を失へる薄命を御身の上に思ひくらべ給へ」之れを聞いた麗夫人も寧王女も思はず眼を聞くして不思議の樣子をなし、且顏面には喜びの色を漂べて　麗「是れは又誠に珍らしき事もあればあるもの、其鶴こそ妾の手元に居りまする」と云はれて爲朝はエ、とばかりに驚いた、



奉祝 天長節

每歳天長の佳節を祝するに際して、余輩の深く感ずる所のものは、掛卷くも畏き、我 天皇陛下の御仁威によりて、國光益々發揚し、年毎に帝國の進運を見ること也、惟ふに是れ帝國臣民の擧て感喜する所ならむ、

聖壽の無窮を祝禱するに於て、皇威の發揚、帝國の進運を喜ふの感は、陛下の臣民皆同一なりと雖も、在韓臣民は殊に此感痛切ならざるを得ず、何となれば、其光榮を誇るの情一層に適切なれば也。

惟ふに、我 皇威の發揚は東洋の文明と平和を意味す、

陛下仁慈の普及は、東洋平和の礎也、陛下聖威の發揚は文明の光也、思ふて爰に至れば、無上の光榮を感ず、余輩臣民は揮て皇謨の進展に朋めざる可からざる也。

茲に、誕辰の聖節を奉祝するに際り、聊か所感を記して、永へに聖壽の無窮を禱り奉る。

東京電報

▲靈柩入京の光景

伊藤公靈柩は本一日午後一時八分新橋驛着プラットホームより砲車に移し停車場正面車寄より出場し元老各大臣樞密院議員海陸軍大將貴衆兩院正副議長議員府知事市長市民數千名出迎へ沿道雲の如く市民出迎し而かも寂として聲なく暗涙を袖に拭ふもの數知れず出迎の盛なる東郷大將凱旋の時に似て悲痛暗澹たり(一日後六時)

▲韓太子の逃走説

韓皇儲殿下は三十日夜在京中の某韓人に擁せられ潛かに鳥居阪御用邸を拔け出で西下せりとの風説傳はり大阪警察署にては列車の發着毎に嚴密なる警戒を加へ其他各驛とも非常線を張り注意せしが事實無根也(一日夜着)

▲國葬と下院弔辭

衆議院は正副議長を始め各派代表者集合伊公葬儀の際左の弔辭を送るに決す

樞密院議長從一位大勳位公爵伊藤博文君薨去せられたり公は夙に王政維新の大業を贊襄し開國進取の國是を翼立し入つて内政を釐梅し出でゝは樽俎折衝に國運の隆興を助け平和の確保に全力を注ぎ蹇々匪躬五十年殊に公は千載不磨の憲法を起草し濟美に盡瘁せられたるは國民の均しく翹視する所なり今や老軀遙かに滿洲に入り更に大に貢献する處あらんとし不幸にして韓人の兇手に殪る衆議院は國家の柱石を失ひ哀悼措く處を知らず茲に恭しく弔辭を贈る

明治四十二年十一月四日 衆議院議長 長谷場純孝

▲川上總領の豫後

伊藤公兇變の際兇漢に銃擊せられたる川上總領事はハルビン病院に入院中の處豫後の經過良好なれば一先づ歸朝すべしと公電あり(同上)

▲遭難の活動寫眞

成人の手にて伊藤公哈爾賓停車場に下車したる時より遭難に至る迄の狀況を活動寫眞に取りしものあり其筋にては右買收を約せり(同上)

▲縱貫鐵道の全通

鹿兒島縣人吉吉松間二十一哩延長工事は矢嶽墜道最も難工事なりしが此程工事竣成したりこれにて九州線開通したるのみならず東京鹿兒島間の全通にして日本縱貫鐵道の全通を見たる次第なれば鐵道院にては來る二十日を以て盛大なる全通式を擧行せんとて目下其の計畫中なり(同上)

▲伊藤公邸へ勅使

天皇陛下には昨日伊藤公爵邸へ勅使として侍從北條子爵を御差遣左の勅語を賜ふ(二日)

卿が滿州旅行中不慮の災に罹り薨去したるは痛恨に堪へざる所なり特に使臣を遣はし朕が卿を懷ふの意を述べしむ

▲京濱銀行の休業

四日伊藤公爵の國葬當日京濱各銀行は弔意を表し休業することに決せり(同上)

▲元帥入京の光景

キッチナル元帥本日午後二時十分入京す各大臣文武官の出迎へ非常の多數にて盛況を極め元帥は宮内省より差廻されたる馬車にて直ちに旅館芝離宮に入れり(同上)

▲露藏相の渡日説

露國大藏大臣ココツオフ氏は哈爾賓に於て伊藤公爵薨去の爲め會見を果さざりしを以て日露協議の案件を齎らし日本へ渡航我外務局と會商すべしとの説行はる(同上)

▲森秘書官の入院

伊公遭難の際負傷せし森槐南氏は爾後の容態不良にて出血の恐あり本日赤十字病院へ入院せり(同上)



電報

國葬當日の廢朝

伊公國葬當日は勅命に依り廢朝せらる事仰出されたる旨統監府へ公電あり

彈丸はダムダム

確なる筋への着電に依れば今回兇徒の狙擊に用ひたる彈丸はダム、ダム彈にして現に田中滿鐵理事の脚部を貫通したる彈丸は彈頭を十字形に裂き居たり

憲兵隊の大活動

韓國駐劄憲兵隊は何事か四五日以來一大活動を開始し居れり其結果如何なる事實を現出するか今茲に之を詳記するの自由を有せざるも不日全道の天地を震撼するの事あるべしと傳ふ

伊公護衛を拒絶

伊藤公が平素護衛の警官を厭ふの風ありし事は隱れなき事實にして如何に公が平民的の人なりしかを知り得ると共に又た如何に自から信ずる所深かりしかを察し得べし今次滿洲巡遊の際も長春停車場までは都督府に於いて殆んど強請的に護衛巡兵を附せしめ公も亦たその意を諒とせられし風なりしも亦た廿五日長春停車場を離れて露領に入らんとするや公は急に都督府當路を招き儼然として既に他邦の領土に入らんとす何すれぞ自國の警護を俟つの要あるべき之れ寧ろ露國の警察權を蔑視するにも均し故に今日以後は斷じて日本警官若しくは憲兵を余の身邊に置く勿れと申渡され佐藤都督府警視總長の如きは一再抗辯して其必らず露國の警察權を疑ふものにあらず自國の元勳に對する禮を盡さんとするものなる旨を陳じて平服憲兵の隨行許可を要請したるも公は斷じて之を斥け遂に哈爾賓停車場に向ひしに不幸兇漢の暴威を逞ふせしめしは之れ必ずしも我が護衛を附せざりしが爲にもあらねど以て公が平素を偲ぶに足るを得べし

伊公追悼會の順序

明四日伊藤公國葬當日執行さるべき追悼會の式場順序及心得左の如し

▲式場の順序 一午後一時五十分祭主以下各員入場(此間奏樂)一午後二時齋主式を始む可き事を祭主に告ぐ一次秡主進んで秡詞を奏す(此間一同立禮)一次降神式(此間奏樂一同立禮)一次齋主昇殿開扉一次獻饌(此間奏樂)

▲參列員心得 一、馬車は一切駐劄軍憲兵隊本部前にて下車の事一、參拜者は案内狀を必ず持參すべし持參せざるものは入場を許さず一、係員は徽章を付す一、式場は各指定の所に著席する事一、救護場を同隊建物内に設く一、式の開閉に方りては長く一聲ラッパを吹奏す一、拜禮の際は玉串台を四ヶ所に設け統監齋主軍司令官の拜禮終りたる上は係員の指定に從ひ各自靜肅に參拜の事一、玉串を神前に捧げたる上は直に退場の事一次齋主祝詞を奏す(此間一同立禮祝詞終りて奏樂一次祭主玉串禮拜一次齋主玉串禮拜一次軍司令官玉串禮拜一次參拜員別に定めたる順次に從ひ禮拜一次軍隊及他の團体參拜一次撤饌(此間奏樂)一次昇神式此間奏樂一同敬禮)一次閉扉一次齋主式の終れる事を祭主に告ぐ一同退場

各司法官の任命

昨一日附を以て統監府裁判所判事又は檢事二百三十九名及韓人司法官の任命ありたるが其主なるもの左の如し

任統監府判事補高等法院長(一等) 渡邊暢
任統監府判事叙補高等法院檢事長(二等) 國分三亥
大審院判事 岩野新平
統監府判事補高等法院部長(二等)
任統監府評定官 三宅長策
同上補京城控訴院部長(二等) 河村尚德
副理事官
同上補京城控訴院判事(五等) 淺見倫太郎
法務院評定官
同上補高等法院判事(三等) 永沼直方
法務院評定官
同上補京城控訴院判事(五等) 草場林五郎
任檢事補京城控訴院(四等) 鳥山虎也太
任判事補釜山地方裁判所長(三等) 吉田雄六郎
任檢事補釜山地方裁判所檢事正(四等) 城數馬
任判事補京城控訴院長(二等) 世古祐次郎
任檢事補京城控訴院檢事長(二等) 中村竹藏
任判事京城地方裁判所長(二等) 中川一介
任檢事補京城地方裁判所檢事正(四等) 永島巖
任判事補平壤控訴院長(二等) 向井巖
任檢事補平壤控訴院檢事長(二等) 土井庸太郎
任判事補大邱控訴院長(二等) 黑川穰
任檢事補大邱控訴院檢事長(二等) 松下直美
任判事補大邱地方裁判所長(三等) 北村七五郎
任檢事補大邱地方裁判所檢事正 關口半
任檢事補光州地方裁判所檢事(三等) 鈴木五郎
任判事補大邱控訴院部長(三等) 神尾虎三
任典獄補大邱監獄典獄(五等) 富山要次郎
任典獄補京城監獄典獄(五等)
其他典獄六名の任命ありたり

仁川居留民會の開會

仁川民會は既報の如く一昨日午后八時三十分より開會したるが出席者は慶田、市川、稻田、木塚、八田、加藤、伊東、加來、青木の九議員にして各國居留地先埋築起業者より民團に對し百五十坪の地面を無償提供の件及び横山助役任期滿了の件並びに仁川實業聯合會殘務委員より金二百圓を民團傳染病豫防費の内に寄附の件、四十二年度民團歳入出追加豫算の諸件は異議なく原案の通り認定を經終つて協議會に移り助役退職一時金の件に就き審議の結果三千五百圓を特別給與するに決し會計役臨時代理者選定の件は岩崎民長兼掌するに決定し尚ほ觀測所砲手傷痍慰藉金特別贈與の件は金百五拾圓を贈るに一決し引續き仁川病院規則中一部改正の件並びに伊藤公爵家へ弔電案を議決して散會す

十月中鐵道運輸概況

十月中鐵道廳運輸收入概算額は如左

客車收入	十八万五百七十七圓三十六錢
貨車收入	十五万九千六百八十九圓廿七錢
合計	卅四万二百六十六圓六十三錢

之れを客年同月の收入額に比すれば

客車收入	廿二萬二百卅三圓四十一錢
貨車收入	十五萬二千二百五十二圓十七錢
合計	卅七萬二千四百八十五圓五十八錢

となり客車收入に於て約四万圓を減じ貨車收入に於て七千餘圓を增し差引三萬二千餘圓の減收を見たり其主たる原因は前年に於ては交代兵の大輸送ありたるに反し本年に入りては財界益々不振なるのみならず十月上旬は虎疫旅行の爲め旅客の往來を減じ約一万一千圓の減收を見たるが爲め而して貨車收入の增加は京義線に於ける木材無烟炭の輸送頗に增加したるに依れりと

仁川の天長節祝賀會

仁川官民有志者は本日の大祭日を奉祝する爲め祝賀會を開き尚亦た信夫理事官は盛大なる夜會を催ふす筈なりしも見合せとなりたれば本年の天長節は市況不振なる折柄一層の淋しさを呈するなるべく斯くて午前九時より仁川小學校に於ては拜賀式を擧げ同理事廳にては午前十時官民有志者集合して御眞影を拜賀し其より大神宮に於て遙拜式を行はせらるゝ筈なるが仁川民團は市中四ケ所にアーチを設けて祝意を表せり

一銀貨幣發行高週報

自十月廿四日 至九月三十日

第一銀行券總發行平均高	一一、九四五、二〇〇
内 正貨準備發行高	四、〇一八、六〇〇
保證準備發行高	七、九二六、六〇〇
銀行券平均手許有高	六七三、五三四
銀行券市場平均流通高	一一、二七一、六六六

硬貨發行額(十月三十日現在)

内 金貨二十圓	五、〇九九、五一〇
同 十圓	一、三五〇、〇〇〇
同 五圓	五〇〇、〇〇〇
銀貨五十錢	七六六、五〇〇
同 二十錢	一、〇〇八、〇〇〇
同 十錢	八四六、五〇〇
白銅貨五錢	七六一、八〇〇
青銅貨一錢	一九八、一七〇
同 五厘	六八、五四〇

仁川の藤公追悼次第

仁川官民有志者が明四日同地小學校雨天体操場に於て伊藤公の追弔會を執行する由は既報の如くなるが今當日に於ける詳細なる次第を報せんに先づ午前九時迄に同會場に集合し東本願寺妙覺寺仁川寺遍照寺本派本願寺禪宗の各僧侶の讀經に次で神官は祭文を朗讀し尚ほ信夫理事官及び岩崎民長は官民を代表して弔文を朗讀し斯くて一般參會者の燒香ありて散會する筈なりと云ふ

司法權委任と祝賀會

司法權委任祝賀會を擧行す可く市民間に協議成り既に夫れ〳〵準備中の處偶々伊藤公の兇變に接し遠慮する事となりたるが本月中旬頃に至らば差支なかる可きを以て然る上一大盛會を擧る由

光濟號新舊艦長謁見

前任光濟號艦長勝木源次郎同機關長德永斌現艦長田口久盛同機關長佐竹芳夫の諸氏は度支部大臣帶同昨日午前十一時仁政殿に於て韓皇に謁見せり

京義線列車内の食堂

鐵道廳にては去る一日より京義線直行列車内に於て洋食其他食品を調理し一般旅客の需めに應じ尚一二等室の中間に臨時食卓の設備を爲したりと云ふ

木越六師團長の出張

木越第六師團長一行八名は一日午前十時四十分釜山發列車にて釜山鎭に向へる旨昨日鐵道廳に通信ありたりと

間島領事館開館公報

永瀧間島總領事より左の公電あり

總領事館及分館は本日開館し齋藤大佐一行本日出發せり(二日)

韓政府と司法令公布

委任法權實施は一日を以て開始せられたるが韓政府は一昨日官報號外を以て吾政府の公布せる關係諸法令を公示す

當地各銀行臨時休業

第一、十八、三十の各銀行は伊藤公國葬當日祭業を休止し弔意を表する由

國葬當日の休學敬弔

學部は四日の伊藤公國葬當日は授業を休止して敬弔の意を表する旨通達せり

龍山通信 (二日 支局報)

▲御眞影奉戴式 豫報の如く龍山小學校にては一昨一日御眞影奉戴式並に新築落成式を擧行せしが大久保民長及び三分一校長は午前九時京城理事廳に出向御眞影を奉戴して歸校學校職員兒童等門前に奉迎し轉て午前十一時より式を擧げたり(式順略)尚ほ當日の來賓は統監代理、軍司令官代理、三浦理事官鐵道廳高等官兩三氏、海津民會議長並に各議員、生徒の父兄及新聞記者通信員等百數十名式後立食の饗應あり生徒の運動會、成績品展覽會等ありたり

▲軍司令官代理 軍司令部副官步兵大尉竹內正虎氏は一昨一日午後九時發列車にて特別大演習陪觀の爲め東歸せしが伊藤公葬送の當日は軍司令官代理として會葬する筈なりと

▲今三日の龍山 軍司令部にては午前九時三十分より拜賀の式あり鐵道廳にては遙拜式あり民團吏員民會議員其他小學校に參集し拜賀式を行ふ此外消防演習も催さるべく公私業を休むで今日の善き日を奉祝するは云ふ迄も無し

▲諸兵連合演習 昨二日西氷庫附近に於て步騎砲工兵連合演習施行されたり

▲村瀨氏の歸龍 キ元帥見送りの爲め釜山に出張したる村瀨事務官は昨二日午前八時三十分歸龍せり

▲防疫員慰勞會 一昨夜龍山八景園にて一度延期されたる龍山官公署員連合の防疫慰勞會開催されたり

▲明石參謀長歸龍 キ元帥を釜山に見送りたる明石軍參謀長は一昨一日午後八時十分着の列車にて歸着したり

▲羽田特派員入京 大阪毎日新聞の羽田浪之紹氏は豫て歐洲漫遊中のところ今三日入京同社支局に入りし筈なり

▲仁川管區長來着 憲兵中尉仁木友彥氏は一昨日入京山本旅館へ投宿せり

▲水原憲兵管區長 憲兵中尉皆藤英夫氏一昨日入京し佐藤旅館へ投宿せり

▲鈴木中尉の入京 鐵道憲兵分遣所長鈴木喜代三氏一日入京京城ホテルへ

▲安武惠熊氏入京 江陵管區長憲兵中尉の氏は一日入京山本旅館へ投宿す

近事片々

▲本日は 聖上の御誕節内外の臣民歡呼して 聖壽の萬歲を祝はぎ奉らむ

▲小兒が楓の如き手を拍きて旭に輝く日の丸の國旗門並の歌を唱す可愛也

▲畏くも 陛下には來る五日演習地に行幸し給ふて軍を統監せらると承る

▲那須野ケ原に駒を進めて御統監あらせらる御雄姿漏れ聞くだに心氣爽快

▲桂侯は自ら伊公の繼紹者を以て任ず抱負亦群を拔く侯も亦幸運の人たり

▲曰く、伊公の志を繼ぐ者は余也不肖自ら兵責に任せざる可らずと意氣昂る

▲伊公を秀吉とすれば岩倉公は信長桂侯は差詰家康也との評は頗に穿たり

▲華麗なる政策一代の人氣を集めたる點に於て伊公は能く秀吉に彷彿する

▲啼かずば殺すぞ時鳥の概は岩倉公と大久保甲東とに於て見るを得べき乎

▲啼く迄待とう時鳥の家康と桂侯と聊か比較を失するも多少其面影あり

▲其陰忍の點は稍似たり鐵の如き性格桂侯及ばず其勇氣も亦及ばざる觀有

▲兎に角桂侯は幸運の人たり此點に於ては慥に家康以上ならん先以て重疊

▲斯く比較評し來れば三成の格は伊東巳代治か併し三成程に覇氣に乏しい

▲山本權兵衛伯は差詰直江山城守か虎視眈々たる所は慥に桂侯目の上の瘤

▲曾禰子の統監振りはあれでイヽか?と東京朝日は揶揄的に皮肉て居るは妙

▲日本で見れば誰も此位の感が起るだろう片々にして此位の事は言ひたい

▲伊公に替て日本一の政治家が再び露國藏相に會見協議すべしとの報傳る

▲是が爲に北京朝廷驚愕すと云ふされど驚く勿れ帝國は清國を疎外はせじ

▲所が日本よりは倉地政務局長が出掛けて北京で何事か協議せんとの事也

▲帝國と露國との協議は日露清三國の親善を計るにあり清國猜疑す勿れ

匪賊討伐の成績

吾が駐劄軍及憲兵警察が昨四十一年十一月より本年十月に至る…

衝突回數	九百七十六回
賊 死	三千〇九十八人
賊 負傷	三百六十七人
自首捕縛	三千〇五十九人

…三百二十八人合計千六…百八十七人なりと

暴徒巨魁金海山捕縛

…る有力なる巨魁金海山…過般南韓討伐…伐隊の爲めに捕縛せられたりと云ふ

伊公追悼と愛國婦人會

…故伊藤公の追悼會參列…へもの等に付協議し尚は一般會員は來…

キ元帥隨員武官入院

キ元帥の隨員ボオシャア中佐は新義州…田團軍司令部軍醫部長の診療を受け居れり



●菊の話（御紋章に因みて）

日の頭を騈せて樓より後し、若しく惜みは鳳齡尚ほ幼うして御位に即き給ひ、幾多の艱難を經て漸く維新の大業を樹てさせられ、次々に引き繼ぎ來たる内憂外患に惱しみ大御心を安め給ふ時とてはなかりしかども、いや日に長く、皇祖皇宗の遺訓を守らせ給ひて、少しの倦ませ給ふこともなくばわらせず神かけて民を撫育し、國を知し召すこと茲に四十餘り二た年となり、かゝなうれば鳳齡も既に六十の春秋を經ぬめり、舊き曆の嘉永壬子五年九月二十七日こそ我が大君の生れ給ひし日にてそあれ。新らしの曆に照らし移さば、其の昔の其の日は、恰も今の十一月三日にして、即ち今日ぞ其の日なりける。あゝ人生れて五十路を過るだに、古來稀なりとこそ聞くものを、あはれ我が大君はそを越ゆさせ給ふて六十にして尚ほいやましに、健にましまし竹の園生のいや榮ゆに榮ゆ給ふてどのいとゞ芽出度く、年々に國民草の今日の日を迎ふる毎に、皇祚の隆なるをめづらひ天壽の長久を祈らぬことゝてはなきも、今年はわきて六十てう數よき御誕辰を迎ふることゝて、今日の民草の喜びは、亦た常にいやまして多しけらし。紹露の日毎に粥に滋くなりまさりて雁音の聲々と鳴き渡る東籬の邊の菊の孤り香を擅にする氣高さを觀るにつけては畏きあたりの御紋章のことゞも思ひ出され、因みに因みて菊の話を語らひ出すも、天壽の無窮を壽き太平の御恵をたゝへん印になむ。

東籬に咲き亂るゝ菊は菊科に屬する宿根草にして、野生のものもあれど、多くは園中に培養さる、莖は高さ二三尺より五六尺に至り太さは拇指大もあり中には灌木の如きものあり、葉は單葉にして羽狀に缺刻し、其裂片は鋸齒ありて葉柄を有す。花は許多相聚りて頭狀をなし、其外圍に數重の鱗片より成れる總苞あり、其狀恰も萼の如し、以て一大花たるが如き觀をなす。色には紅黃白樺茶紫等種々ありて大小も亦た一樣ならず、又た花に緣花と心花との別あるが兩者共花冠のみありて萼を有せず緣花は雌蕊一にして舌狀をなし、心花は五箇の雄蕊と一箇の雌蕊とよりなりて筒狀をなす、其香多くは清雅なり。花散りて後乾燥せる閉果を結ぶ。

●種類● は頗る多く一々枚擧に遑あらざれども、其主なるものを擧ぐれば下の如し『洋菊』夏菊と秋菊との二種に分つ[illegible]

[illegible]は秋月に開く、共に紅白紫碧等あり●『野菊』油菊とも云ふ。山野に自生し黃花を附く。花を採り乾して枕に容るゝに香氣ありて快し『濱菊』莖高さ二尺餘に至り年を經て枯れず、秋の末に花を開き白色にして中心黃色あり、海濱に自生すれども又た庭園にも培養せらる●『小濱菊』莖は高さ一尺許にして秋末白色の花を開く、老ゆれば淡紅紫色となり、多く北海道及陸奥地方の海濱に自生す。其他菊の一種に『除虫菊』と稱するものあり。莖葉共に强氣あり培養して莖葉花を採り粉となして蚤其他の害虫驅除に使用す。近年各地に盛に培養せらる。

●效用● 庭園に植ゑ若しくは盆栽として花を賞し其の嫩葉及花瓣は茹でゝ食ふべく或は葉を揚物の心に用ゆることあり、又た一種苦味の强きものは、莖を燒きて蚊を燻除し葉及花を乾して細粉とし害虫驅除に用ゆる等效用少からず又た菊油といふ香油をも製す。

●栽培上の注意● 菊は乾燥の地を好み濕地に適せず。花を賞せんとせば培養殊に巧みならざるべからず。菊の實は甚だ微小にして容易に見るべからざるが故に、昔は根を分け枝を插して育成繁殖するを常法とし實を採りて之を播くは極近來の事なりと云ふ。

●由來● 菊は古名をククと云ふ古へより栽培したれども我國固有のものにあらずして朝鮮より移植したるものなりと云ふ、朝鮮語のククは菊の事なり、又た五菊と稱して支那より移植せしものあり鵝毛●玉牡丹●御愛●醉楊妃●京太白即ち是なり、初め筑前博多に移植し後各地に傳播したるものなりと云ふ。

●圓子の墮胎騷ぎ　仁川敷島遊廓日進樓の圓子が墮胎したとかせぬとか其れは〳〵喧しき噂なるより其筋に於ても捨て置かれず一昨日本署に同妓を呼出して取調べたるに別に左る氣色も見へず全くの處は久しくあるものがなく手足の痳痺するより若しや姙娠にあらずやとの疑念を起し本町一丁目の[illegible]處數日前敷島樓[illegible]行きたる際今まで[illegible]這は不思議よど[illegible]に何の異狀もな[illegible]所で降したるなり[illegible]しには保官[illegible]しとなむ

●食意地の穢い男　明治町二丁[illegible]宿通運會社々員岩[illegible]裏通り山城屋北[illegible]食店山陽亭事水藥[illegible](二六)の兩人は[illegible]十五錢の飲酒を爲[illegible]金は延期を申込み[illegible]承知せざるを大に[illegible]と捨言を吐て逃走せんとせし[illegible]署巡査出張して取調べを受け所[illegible]園は速時拂はしめ殘金は調達の[illegible]まで阪本が着用の羽織一枚を抵[illegible]けて歸宅せしめたりとはつまら[illegible]男振を下げたり

●大工の黑繩違ひ　山口縣士族當時京城本町一丁目十三番戶居留大工職伊藤權吉(三[illegible])は昨日午後七時頃韓人車夫趙道奉(二[illegible])の人力車に乘り旭町一丁目より新町遊廓迄往復五十錢の約定で乘廻り賃金を支拂はず遂に口論から馬鹿にして居るなど車夫が南部署に訴へられ大目玉を頂戴して漸く賃金を拂ひたり

●バターの製造　韓國に於ても追々乳油の需要[illegible]く輸入品なりしが今回韓國畜[illegible]會社に於ては丁抹國より最新[illegible]を取寄せ同社の特別牛乳にて製[illegible]供するとなれり之れ韓國に於[illegible]バター製造の嚆矢にして其製品は[illegible]ターにして風味頗る純粹のクリ[illegible]よろしく本田豐永兩優美内外人[illegible]と大に趣を異にし博士の如き[illegible]賞讃されたりといふ

●猖進樓の新妓　つい二三日前までは龍山桃山[illegible]開運樓にて色餓鬼の千人斬りを[illegible]たる鈴子、朝子の二拍子は同じ[illegible]るにしても都に限ると感じたか[illegible]知らぬが昨夜より新町遊廓猖進[illegible]替したりさなん一寸粹樣へ御注進

●泥棒の[illegible]　京城西部居住の李大水([illegible])と云ふは一昨日午後四時頃仁川宮町[illegible]一六錢質所に新らしき鞄を賣却[illegible]して怪まれ仁川署に同行取調中なり

●一昨夜の新町　遊廓の色餓鬼以八十九人にして散財額四百五十八圓十錢

●壽座の替り藝題 [illegible]

目『湖』にして配役左の如し グラシャノ、和田新一(小泉) 貴族バツキ、東吾妹れ妙(吉野)ポオシャ、雄三郎妹米津文子(藤島)アントニオ商會員橫山運平(香月) 警護人、女學生役に野呂井夫人勇子(小伊東)警護人、岩五郎子分捨吉(吉井)警護人、學生田村(笹原)警護人、岩五郎子分(小林)警護人、百姓杢助(藤井)警護人八百屋清助(玉木)ボッサニオ、紳商米津雄三郎(小泉英)書記、學生山田(田中)警護人、村吏員山本(細井)警護人、女學生星山筐子(三好)警護人女學生陰山雛子(田中)警護人、女將れ辰(津村)東吾弟富也(高井)ギリッサ、藝妓小米後に橫山運平妻米子(紫野)サラリノ、高利貸桑村新藏、紳士野呂井欣彌、芳川 貴族ナトリー、東吾父坂巻幸介(番)僧珍念(北秋)エニス公爵、奇賊坂巻東吾(伊東)猶太人シャイロック惡漢野々山岩五郎(福井)

福井茂兵衛優（七）

當地壽座に出演する

出獄すると神奈川縣では娼妓保廢論行はれ當時市會の一大問題であつたが僕は存娼論者の一人として我意を主張し反對論者と口論の末議場で打擲つたので毆打罪に訴へられ僅かに娑婆の空氣を吸ふ五日にして三ケ月の入獄三十圓の罰金に處せられ神奈川縣監獄で苦役に服した、前申した樣に悉んな有樣で出ては這入り、這入つては出て殆ど獄屋生活をして居りましたが餘り感服した話でもムいませんから略すとして愈々僕が芝居に關係した話しに移りませう。

忘れもしません明治廿四年の五月廿七日保釋中の僕を木村周平の紹介で川上音次郎が訪問て來ました、初對面の挨拶を交換し終ると曰く『今日参つたは他でもムいませんが實は過般來自分の組織せる一座が橫濱蔦座を打揚げ役小田原に乘込まうとしたが旅費がない、そこで伊藤仁太郎(痴遊)の紹介で中村勘三郎に縋り付き段々と賴み込んで役者の分を裸分で三分と極め五十圓を借り受け漸くにして三月十九日橫濱を出立し小田原寺町の桐座に開演したが散々の不入で物の美事に失敗した、止を得ず夜逃げ同樣一座を率ゐて五月十七日橫須賀に歸り目下立花座に芝居を演つて居るがこれ亦不景氣で進退谷まり絶體絶命の場合に立ち至つたから何ど[illegible]いので、まゝよ成否は時の運一番遣つてみよさ俠氣を出し萬事引受た、川上は其夜一泊して翌朝橫須賀に歸つたが却說後で熟考てみるさ隨分困難であるあながち僕が保釋中であり金も無ければ經驗もないといふのみならず、その頭世間では壯士を蛇蝎視して一點の同情を與へてくれないから賴る所がない色々思案を廻らす内當野道觀と相談をするど『そいつは面白い、珍らしいから乾に成功するだらう』と意外の贊同を得て僕も愈々乘氣になり務發して着手する事にして、先づ差當りは小屋の借受であるが、逆も全盛の小屋は駄目として鳥越の中村座は當時最も寂れて前茶屋が承知しなければ開場が出來ないどいふ惡れな始末であつたから同座ならば容易に交涉が纏るだらうと高を括つて掛合つたが却々ウンと言つてくれぬ、それを右から說き左から勸め漸く話を纏め早速警察へ屆け出ると『保釋中の福井が芝居を演るといふのだから什麼危險を仕出かすか知れない』との懸念から許しがない、數度署長に會見して或は狂言の筋を說明し或は政治方面に毫も關係のない事を辨解してヤット認可を得た(未完)



清華亭の老妓れ蔦

吉凶鏡

本町五丁目 三一館判斷

十一月三日舊九月廿一日四綠大安丁卯となる△一白 常務常業の事支障なし創始更改の事凶其外平靜△二黑 妄言詐言に罹るなかれ取引交際上に留意すべし尚紛失防ぐべし△三碧 舊常を守るべし更改の事凶尚旅行凶音信異事を避らすあり△四綠 衝突齟齬多し交際上業務上に留意すべし△五黃 盜難紛失酒色の亂れを愼しむべし尚情義のために出損損害あり△六白 創始改變の事凶尚旅行見合すべし紛失注意せよ△七赤 頹運の日なり戒飭すべし紛爭酒色愼しむべし創始改易凶△八白 長上より叱責若くは戒飭にあふあり他人より無理難題を言ひ掛けらるゝあらん△九紫 福祿の日さす收利便宜を得るあり

十一月四日舊九月廿二日五黃赤口戊辰やぶる△一白 衰退を意味す新事見合せの事親子兄弟の事に付き損害若くは出損あらん△二黑 執拗に偏して衝りあり家庭近親內の事に付き損毫若くは配慮あり△三碧 厄運の日とす進退去就非常の注意を要す盜厄水厄畏るべし△四綠 泡沫に歸し易き日なり新事計畫効なし交際上注意を要す旅行移轉叉障なし△五黃 自信篤じて誇大となりて失錯あり家庭近親又は朋友間に不和中絕避くべし△六白 總して快欣の日なるも勢に任せて妄動し易し旅行取引談合等効を遂ぐ△七赤 失言辱其他口舌の禍畏るべし旅行入學婚姻養子起業開業等吉△八白 平穩の日なり官職業務上失錯を起すなかれ△九紫 驟進の日なり概して遂巡痴疑を禁ず尚潤色誇張に傾くなかれ

各種 洗濯石鹸 專門製造販賣

用途 陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道湯屋、散髪、諸工業用

京城旭町二丁目(電話九七三番)

朝日石鹸製造所

石炭木炭

歐米雜貨。食料品。和洋酒
呉服太物。時計。貴金屬
洋服。文房具。家具
金庫。煙草。牛乳

陸軍諸官衙御用達

淺野石炭部龍山代理店

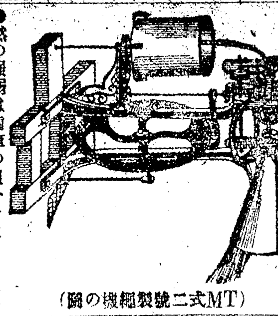
龍山新市街山下町二丁目

(R) 龍山兄弟商會

電話架設中 取次電話百四十八番 電信略號リウ

銀牌受領の祝として 三千臺限り直段改正

TM式製繩機二號機 金二十五圓 荷造り費金一圓要す



(MT式二號製繩機の圖)

●燃の強弱は繩車の組合せにより自在に加減出來得るなり

本機 一日の製繩高一萬尺

本機の使用法説明書は御申越次第進呈

東京市下谷區南稻荷町九十番地 種苗農具問屋 谷本清兵衛商店 振替東京七六五番 電話下谷五九二番

歐米新式 高等裁縫 龍山榮町 田口洋服店 電話三一二番

陸軍諸官衙用達 建築土工請負業 龍山老松町 磯口商店 電話一一九番

梅毒患者の福音

●殊に梅毒三期患者に對して本院獨特の藥劑療法を行ひ如何なる難症と雖二週間以内に全治せしむ 從來病に對しても最新の治療を行ふ

内外科小兒科 京城南大門外 通御成町

梅毒 梅病科 戸田病院 電話九三八

滋養と牛乳

純良 牛乳 京城東四軒町 岡野牧場 電話登〇六九番

馬車配達

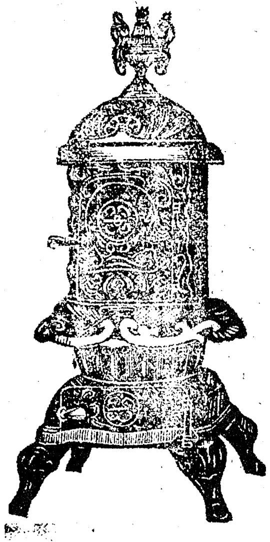
●衛生と消毒●

暖爐各種

煙突取付並ニ煙突掃除大勉强

京城本町五丁目角一番戸 馬木勇吉 電四七一番

龍山山下町兵器廠官舍道入口 馬木支店 電三六四番



タ ー バ ッシュ レ フ (新鮮乳油)

曾禰統監閣下御賞用

●水原模範場本田豊永博士御賛賞

●世界の酪農國丁抹國の器械にて製造す

●原料は本社の特別牛乳、製法は最新式

●毫も混和物なく眞正純良のバター

●風味頗る優美にして最も嗜味に適す

●韓國に於る乳油製造の嚆矢

●御用の節は隨時配達仕候

消毒牛乳本舖 韓國畜産株式會社 南大門外(電話八八番)

一手販賣所 井出商會 黄金町(電話一九〇番)

廣告

會席御料理御一人前 肴四品付酒二本 金六十錢

すき燒其の外應御好

京城竹園町一丁目 遊樂樓 (元三遊樓跡)

出張所開設廣告

當事務所今回司法權委任の實施と共に便宜上左の地に出張所を開設し一層誠實熱心を以て法律上諸般の鑑定代書及び測量事務に從事す

明治大學出身 增本好三郎事務所

事務所 京城旭町一丁目二百八十二番戸(度支部官舍向) (電話千五十番)

出張所 京城鐘路通一丁目(京城地方裁判所前)

●縣場搾取の牛乳を愛飲せらるゝ御諸君は最も滋養豊富風味佳良の牛乳を飲用し得らるべし

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す 縣場夙に此に留意し好良の食料を給す

諸官衙御用品調達

營業科目

和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐デシン 穀物食鹽 諸染料類 各學校御用品調達

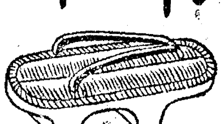
委託販賣

東京 ランバーダ商會代理店
東京 中外アスファルト株式會社代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
藤田合名會社
東京 博文館發行書籍特約店
東京 金港堂發行書籍特約店
釜山 韓國鹽合資會社食鹽特約店

本社 京城明治町二丁目(電話二三〇番)

出張所 東京京橋區南鍋町一丁目(電話新橋三九六二)

東京 足袋



本店東京 京城大和町一丁目(日の出橋際) 大和屋

正札付大安賣 厘毛引なし安心して買へ升

藤井出張店 電話二百〇五番

開業四週年 大賣出し

弊店儀御得意樣の御引立を蒙り日増しに繁榮に赴き候段難有仕合に奉存候就ては開業四週年に相當するを機とし平素の御愛顧に酬ん爲め本月は恰も開業四週年一日より一週間を期し破格の大賣出を開始致し候間續々御下命の榮を賜はり度奉希上候

百目に付き
ロース 廿二錢 上等肉 十八錢
並肉 十四錢 豚肉 十六錢
鷄肉 三十六錢

明治町一丁目 石田精肉店 電話千〇四十二番

本町一丁目たからや事 石田支店 電話三百二十九番

支那小犬一疋 毛色赤身長一尺牝

右行衛不明と相成候に付發見被下候御方には相當の御禮可仕候

京城貞洞 ソンタクホテル マンニング

入院隨意 内外科 小兒科 梅毒淋病

京城壽町三丁目 高井醫院 院長陸軍軍醫正 高井貞治 電話(二一六)

待春日

合のし

根炭 堅炭 堅薪 松薪 松炭 石炭

京城旭町四丁目(電話一九八番) 眞下大吉商店

京城明治町一丁目 醫學士 佐佐木四方志 佐佐木醫院 (電話八一二番)

折箱製造元

京城明治町一丁目 五十番戸 漢城病院下横へ入ル

箱信事 鳥山商店

大 命 萬

特約販賣 自製

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目

大上商店 (電話二五一番)

和洋酒、罐詰、穀物、麵類、銘茶、罐詰、乾物荒物、食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尙御望に依り商品切手調進仕候

增築落成御披露

增築中の處今般落成仕候間醉樣方の御來車を奉祈候 謹言

京城南山町一丁目 電話一一三五番

待合 貸席 入船

辯護士 特許代理業者 岩田仙宗

京城明治町二丁目(佛國教會前) 電話三五四番

御料理 初音

西小門通(元横濱亭跡)

移轉御披露

これまでは太平町にて營業を致して居りました處が皆樣方の御引立を蒙りまして手狹を覺ゆるまでの繁昌になりましたから今回肩書の場所に移りました就てはどうか從前よりもヨリ以上の御贔屓を賜りますよう御偏樣に願申上候

疊及表替調進 井中秀太郎